

人口と世帯数

52年3月末日現在

総人口 13,888人

男 6,866人

女 7,022人

世帯数 3,119戸

広報



たまぐり

第202号

昭和52年4月15日

(毎月1回発行)

五十二事業年度のはじめに

町長 坂本 常蔵



桜花咲きはころぶ四月、町民の皆さまがたにはご健勝にて、毎日をお過ごしのことと存じます。

四月は役場の事業年度のはじまりの月でございますので、一言ごあいさつ申し上げます。

皆さんがご承知のように、昨年は高度成長の時代から安定成長に転換する年で、政府はインフレの抑制、景気回復の政策をとりましたが思うようにはゆかず、県や町の財政も苦しい年でありました。今年も更に安定成長の施策がとられると思われるので、財政の苦しさも続くだろうと予測しながら、町民の皆さんのご

要望をできるだけ多くとり入れ町の振興計画に沿った予算を編成し、過日の議会で決定されました。

その内容は四ページ以降に概要をのせておりますが、産業の振興も、人づくりの施策も、福祉の向上も、安全確保や生活基盤の整備事業も、どの一つをとっても皆さまがたのご理解とご協力がなければ目的達成はできません。

私をはじめとして職員一同、町民の奉仕者としての責任を全うすべく一丸となって努力いたしますので、今年度も変わらぬご協力、ご援助、ごしっせいを賜わりますようお願い申し上げます。最後に、皆さま方のご多幸でありますようお願い申し上げます。

母子保健に威力を	2
役場の陣容が変わりました	3
玉川小屋内運動場が着工	3
昭和52年度新予算決まる	4~6
国民年金だより・季節の話題	6
期待に胸ふくらませ・駐在所だより	7
くらしの豆知識・出産死亡	8

主な内容

'77 / 4 月号

母子保健に威力を

母子健康センター落成

このたび母子健康センターの改築工事が完了し、その落成式が三月二十五日に行われました。かねてから要望の高かった母子健康保健事業が推進できることになり、母と子の健康管理に大きな福音となりました。

県下で最初に母子健康センターが玉造町に設立されたのは昭和三十四年。以来、母子保健の推進拠点として、地域住民の健康と福祉の増進に重要な役割を果してきました。

しかし、最近の母子保健に及ぼす社会環境の変化とその影響から、従来の設備では地域福祉の充実に十分答えることができず、さらに建物自体の老朽化ということもあって改築工事が完了が待たれていました。このたび落成したのはこびとなり、近代的な建物に装いをあらたにしました。



あいさつをのべる町長

母子健康センターの管理運営

- 健康相談
 - 妊産婦 毎週月曜日 午前9時～11時 午後1時～3時
 - 乳幼児 毎週火曜日 午前9時～11時 午後1時～2時
 - 生後1ヶ月児検診 第二・第四水曜日 午前9時～11時
 - 家族計画指導 第一・第三土曜日 午前9時～11時
 - 成人病健康相談 (血圧・糖尿・その他慢性疾患) 第一・第三木曜日 午前9時～11時 午後1時～2時
- 分娩取扱について

健康な妊婦の分娩の取扱
- 産後の快復をはかるために

分娩後自宅で休養が十分にとれない人のために、お母さんと赤ちゃんをあづかります。
- 料金

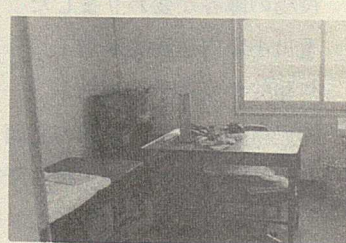
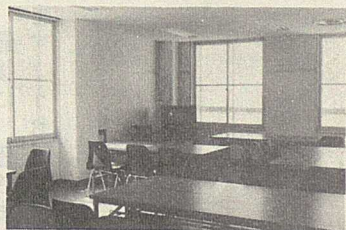
健康相談・検診は無料です。

入所分娩・産褥休養入所……有料

分娩介助料	50,000円
入所料	自町村 1日につき1,000円 他町村 1日につき1,500円
給食費	1日につき1,500円
産褥休養入所	分娩介助料をのぞき、すべて上記と同じです。



一階中廊下 講習室



分娩室

栄養指導室

完成した母子健康センターは、総事業費五、三三二万円をかけて建てられたもので、建物の面積が三四六・五平方メートルの鉄筋コンクリート二階造。一階は、事務室の他に栄養指導室、産婦室、産褥休養室、妊婦健康相談室からなり、二階は乳児相談室と講習室からなっています。

役場の陣容が変わりました

行政サービスの向上に

昨年は財政事情などの理由から、増員及び欠員補充も行われなかったため、サービス面で皆様に不都合をかけたおりました。このたび職員の出退、新規採用もあつて人事移動が四月一日に行われました。異動の結果、税務課長に稲葉やい前民税係長、衛生課長に土子重前企画調査係長がそれぞれ昇進しました。

小谷英夫前企画課長が、企画課長(兼企画係長)に広原正行前産業課長が入れ変わりました。

なお異動は次のとおりです。

- ◎産業課長兼商工観光係長 小谷英夫(企画課長)
- ◎企画課長兼企画係長 広原正行(産業課長)
- ◎税務課長 稲葉やい(民税係長)
- ◎衛生課長 土子重(調査係長)
- ◎福祉係長 小松崎忠良(教育委員会学校教育係長)
- ◎民税係長
- 石毛正子(徴収係長)
- ◎教育委員会 学校教育係長 鈴木亮然(福祉係長)
- ◎調査係長 鬼沢邦夫(企画係長)
- ◎徴収係長 小林征洋(町民室)
- ◎出納室に 栗又正美(税務課)
- ◎町民室に 新堀文江(出納室)
- ◎総務課に 西谷洋子(出納室)
- ◎保険年金課に 田沢孝雄(税務課)
- ◎総務課に 荒井常雄(建設課)
- ◎教育委員会に 飯島友子(保険年金課)
- ◎企画課に 佐藤 章(総務課)
- ◎産業課に 飯島 清(農業委員会)
- ◎税務課に 檜山美智子(総務課)
- ◎衛生課に 滝ヶ崎光男(総務課)
- 新規採用 (四月一日付)
 - ◎町民室に 広内 永
 - ◎農業委員会に 栗原たい子
 - ◎教育委員会に 大和田恵子
 - ◎税務課に 大久保雅司
 - ◎教育委員会に 井川律子
 - ◎保険年金課に 大久保浩子
 - ◎建設課に 小沼美佐夫
 - 額賀 洋
- 退職 (三月三十一日付)
 - ◎照山 彊(衛生課長)

長い間御苦勞様でした。変わりました。

名称が

学習等供用施設

学習センター

心配ごと相談の場所が

母子健康センター

中央公民館

玉川小屋内運動場が着工

残るは羽生小のみ

八月完成目ざし、玉川小学校屋内運動場建設が着工され、その起工式が三月二十五日に行われました。この工事は、総事業費五、六四〇万円をか



地鎮祭の模様

町行政の充実めざし

第一回定例議会

昭和五十二年の事業及び予算を決める第一回定例議会が、三月十日から十五日まで開かれ、総額一億八千三百六十万円の一般会計予算と、国民健康保険、簡易水道事業の特別会計予算が原案どおり可決されました。今年からは昨年からの引き続き安定成長時代への転換期であり、景気回復の見通しもたえず、町財政はきびしいものと予想されますが、その中で町民の皆さんの要望事項をできるだけ満たすことと、町の振興計画にそった予算となっております。

新予算決まる 18億3600万円～

一般会計予算の 大綱説明要旨

産業振興の ために

まず農業の振興については生産物価格の不安定や農業用資材の高騰等による厳しい諸情勢のなかで、需用の動向にそった能率的な経営を推進していきます。そのためには、土地基盤の整備を促進し、機械化による生産性の向上を目標とします。

人づくりの ために

心身ともに健全な社会人育成の基礎となる小・中学校の教育については、学力向上をはかり、教育施設等の充実により、児童・生徒の豊かな人間形成に努めます。また、今年度は羽生小の校庭整備と屋内運動場の建設、玉造中の格技場建設をすすめます。社会教育については、中央公民館に各種学級、講座を開設し、ライブラリー事業を推進し、学習センターの利用とあわせて広域的な公民館活動を進めます。

住みよい町づくりの ために

老人福祉の一環として、前年度運営をはじめた老人いこいの家の管理運営を軌道にのせ、老人のいこいと健康増進の場として利用されるよう努めます。また、ねたきり老人、重度心身障害者等の医療対策、児童手当の支給等福祉の充実をすすめます。さらに、児童公園の設置により児童、幼児の安全な遊び場として心身の健全育成をはかります。

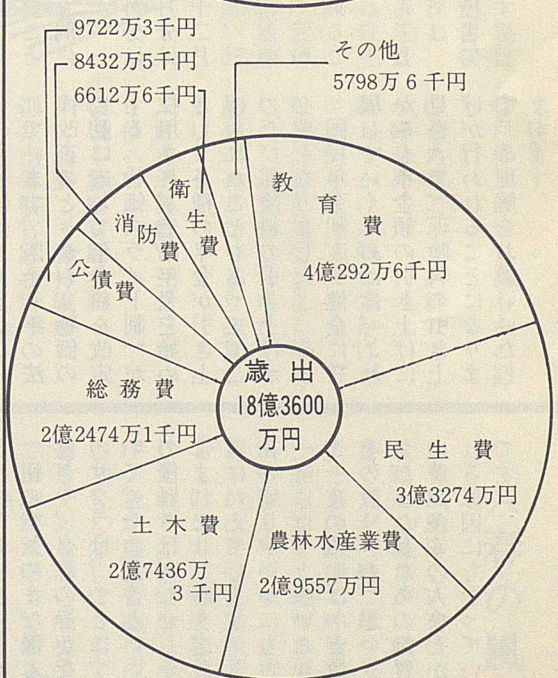
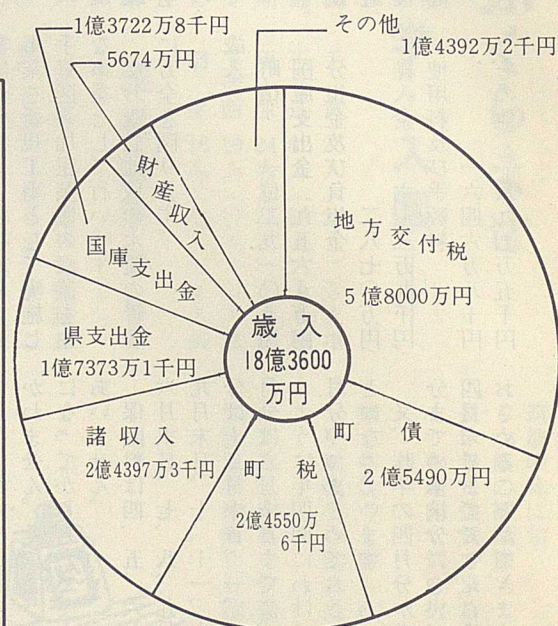
安全な町民生活 確保のために

近年の交通量の増加につれて、交通事故も増加の傾向にあるが、なお一層、安全施設の充実と交通安全協会等の活動を助長し、交通道徳の高揚を図ります。消防体制については、町消防団と広域行政による消防署との連携を密にし、防災体制の万全に努めます。

生活基盤の 整備のために

生活環境の基盤である道路については、農村総合整備事業によって進め、同事業により集落排水施設の整備も進めます。水道事業は、北部地区の新規事業に入り、町内全域完了に向けて努力します。その他、恒例となった産業文化祭の開催をはじめ、地籍調査事業外各種の調査事業、計画策定、農業委員会活動の推進を行います。

昭和52年度 ～一般会計総額で



番号は 書き抜き帳へ

電話番号が不明のときは、まず電話帳や書き抜き帳で調べてください。一度おかけになった番号は書き抜き帳へ記入整理しておきますと、後でおかけになるときたいへん便利です。職場やご家庭で、是非ご利用をおすすめします。

一般会計の主な事業

(課名)	(事業名)	(事業概要)
総務課	交通安全対策	交通安全意識の高揚
	防火対策	貯水槽(40m ²)5ヶ所設置
企画課	地籍調査	八木蔭・浜地区調査、測量 羽生地区 測定、認証
税務課	賦課事務	土地の評価替(ほ場整備完了地区)土地台帳整備(地籍調査関連)
産業課	土地基盤整備	梶無地区、手賀、玉川地区
	農業構造改善	鳥名木地区、梶無地区
	病虫害防除	空中撒布、松くい虫防除
	水産振興	手賀漁港進入道路の建設
建設課	改良舗装工事	現原20号線、玉造14号線、幹線道路
	農村総合整備事業	農道(3路線)、集落道(3路線)集落排水(6ヶ所)、児童公園(3ヶ所)
衛生課	予防事業	予防接種、結核検診
	環境整備	ごみ捨場整備と不法投棄防止
	母子センター	母子保健の推進
	簡易水道	北部地区
保険年金	予防事業	胃がん、成人病、婦人検診
	国民年金事業	受給権確保、相談業務
町民室	老人福祉対策	老人いこいの家管理運営
教育委員会	学校教育	教職員自主的研修
	社会教育	公民館活動、視聴覚ライブラリー
	建設事業	学習センター設置(3ヶ所) 羽生小屋内運動場、玉造中格技場、羽生小校庭整備
農業委員会	地域農業推進	生産及び出荷対策
	総合農家対策	仲介和介の開催
	農地等利用関係	

くらしの豆知識

ふえている

「カブレ」

樹々の芽も息吹き、春の訪れを感じる頃になりますと、皮膚のトラブルも多くなつてきます。その原因としては、①皮膚の新陳代謝が活発になり、冬の間静止していた皮膚病が再発、悪化する。②皮膚表面の湿度、温度が上昇し菌やカビが繁殖しやすい。③外出や集会の機会が多くなり皮膚病に感染しやすいなどが考えられます。

また、最近非常にふえている皮膚病に接触性皮膚炎があります。接触性皮膚炎はいわ

「法守り
みんな
明るくよい社会」
憲法週間 (5/1~7)

ゆる「カブレ」のことで、ある物質が皮膚に接触して反応をおこすものです。むかしはカブレの代表的なものはウルシカブレでしたが、最近では化粧品、衣料、皮革、金属、薬品など、カブレの原因は物質文明の発達とともにふえています。症状は発赤、湿疹、かゆみ、ほとり、ピリピリ感ですが、治療方法は原因物質を遠ざけ、専門医の治療を受けることです。

一般的には、アルコール、香辛料などの刺激性の食物をさけること、また炎症のひどい時は入浴をひかえ目に、石けんやタオルでこすることはやめましょう。

あなたの街です。自然です。
吸がらの投げ捨てはやめましょう。



Smokin' Clean
スモーキン・クリーン

・日本専売公社・

誕生おめでとう
いざいざいざ



出産

へ2月へ

編集後記

○四月に入り新年度をむかえました。学校では新学期が始まり、三月に学校を巣立った者が、それぞれの職場に社会人として第一歩をスタートするときです。

○役場でも四名が退職し、八名の新採がありました。また一日に人事異動が行われ、「広報」の編集が企画課にかわりました。

○「広報たまつくり」も紙面を一部衣がえして、町の行政をできるだけわかりやすく皆さんにお知らせできるように紙面づくりに努力します。

○さて、三月十日に第一回定例議会が招集され、昭和五十二年度の町の一般会計及び特別会計予算が可決されました。そこで今月号は、昭和五十二年度の新予算を中心に紙面をくみました。

○町のいろいろな出来事、話題、また紙面に対するご意見等なんでも結構ですから企画課までお知らせ下さい。

○春、特に四月は、こどもの交通事故が増えるときです。児童や園児のとび出しに気をつけましょう。

赤ちゃん	幡谷信也	阿部信夫	勢智絵美	西谷一	仲野教美	関勝久	滝ヶ崎龍	理崎巳也子	小沼智美	沼田久美子	大田健一	曾根宏二	山根健二	山口忠吉	山崎美那	富田博	栗口義博	関野弘	
続柄	三男	長男	長女	長男	長女	長男	長男	長女	長男	長女	長男	長女	長男	長男	長女	長男	長男	長男	長男
出生	昭和三十三年	昭和三十三年	昭和三十三年	昭和三十三年	昭和三十三年	昭和三十三年	昭和三十三年	昭和三十三年	昭和三十三年	昭和三十三年	昭和三十三年	昭和三十三年	昭和三十三年	昭和三十三年	昭和三十三年	昭和三十三年	昭和三十三年	昭和三十三年	昭和三十三年
出生	部洲落	根古屋	八木蔭	藤井	藤井	竹の	新田	緑ヶ丘	羽生	加茂	西蓮寺	宿泉	荒宿	中山	羽生	上生	羽生	若生	若生

おんやみき
申上げます

氏名

死亡

へ2月へ

茂木サカエ	原田毅	橋本たか	高木やす	小沢ミチ	佐々木正	清水浩
年令	七九	四五	七九	七三	六六	四四
出生	昭和三十三年	昭和三十三年	昭和三十三年	昭和三十三年	昭和三十三年	昭和三十三年
出生	部洲落	川向	若海	上宿	谷島	諸井